令和２年度　第１回　菊池市総合教育会議　（議事録）

○招集年月日　　令和２年 12 月 21 日（月）　16 時 00 分～

○招 集 場 所　　菊池市役所３階　305 会議室

○議 事 日 程

1　開　会

2　市長挨拶

3　議事録署名者の指名

4　議題

（１）教育の情報化の推進について

（２）学校運営協議会（コミュニティスクール）の現状と課題について

（３）その他

5　閉　会

○会議の公開、非公開又は一部非公開の別　　公開

○出席委員及び欠席委員の氏名

[出席委員]	市　長	江頭　実
	教育長	渡邉　和博
	教育長職務代理	森　智保美
	委　員	江藤　継喜
	委　員	生田　博隆
	委　員	芹川　幸良子
[欠席委員]	委　員	渡邉　和雄

○出席オブザーバー　　参与（生涯学習センター長）　木村　利昭

○出席職員	教育部	部長	木下　徳幸
	教育部	教育審議員	田嶌　浩紀
	教育部学校教育課	課長	安武　睦夫
	教育部生涯学習課	課長	山本　美千代
	教育部	中央公民館長	吉川　良二
	教育部学校教育課	課長補佐	冨田　信幸
○事務局	政策企画部	部長	後藤　啓太郎
	政策企画部市長公室	室長	松原　憲一
	政策企画部市長公室	課長補佐	松永　哲也

○傍　聴　者　　なし

○議事内容

議　題	**（1）教育の情報化の推進について**
【議長】	先ずは、教育委員のみなさまからご意見をそれぞれ述べていただき、それを踏まえて教育長よりお話しいただきたいと思う。
【委員】	新型コロナの影響はあったものの、学校における情報化教育の環境整備や各家庭への Wi-Fi 設置支援など、様々な対応をしていただきありがたかったと思う。前々から、ICT 教育は必要だと感じていた。効果を上げるためには、先生たちの指導力を上げる必要がある。そこで、短期間で指導力を上げるために、ICT 支援員・専門員を各学校へ入れて推進していく必要があると思う。
【委員】	本市の ICT 教育は他市町村に比べて進んでいるが、学校現場側の研修等が必要だと感じている。先生も慣れないタブレット環境など大変だと思うので、企業や専門の方などの支援員を複数名置いていただき、各学校全職員がスムーズに使いこなせるような体制整備が必要だと思う。また、子どもたちには大事な教科書だと思うような、大切に使う教育も必要ではないかと感じている。
【委員】	子どもたちはタブレットを与えられるとすぐに操作することができるようになる。タブレットの導入により、本市の課題である家庭学習の充実につなげていけるのではないかと思う。ただ、タブレットが苦手な子どもも出てくると思われるので、そのような子どもたちへの目配りも必要。デジタル化になるので、うまい教え方の共有などもやりやすくなる。市は、引き続きバックアップしていただきたい。
【委員】	ICT 教育は、キャリア教育の視点からも、小中学校間や他の学校間との学びのつながりという視点からも大切になってくる。主体的・対話的な深い学びを進めていくことにも ICT 教育には期待できると思う。子どもたちが学んだことを発表できる機会があればと思うので、学校の授業を把握しているコーディネーター役が必要だと思う。また、このような機会が、地域とのつながり、郷土愛を育むことにつながると思う。
【委員】	1人1台タブレットが 12 月中に学校へ届いたことに対して感謝している。国の GIGA スクール構想において ICT の利活用を保障するもので、年内に配付することができたことは非常に良かった。 ICT を通じてどのような人財を育成していくかということについては、新しい学習指導要領が、今年度が小学校、来年度が中学校、再来年度が高校という順番で導入される。新しい学習要領では 3 つの柱をいわれているが、要するに未知の未来を切り拓いていく力を育む教育を目指すこととなっている。そこで、各学校では、主体的・対話的・深い学びの実現を加速化しているが、そういった人財育成を考えた時に、1人1台タブレットの導入が欠かせない。実際、タブレットを1人に1台渡したところ、自分が使うものとしての興味関心の高さからか、休み時間にも席を立つ子がいなかったと聞いている。 これまで、教職員については、ICT を授業で使っているのは 100%であったが、児童・生徒が ICT を活用しているのは 40%程度で、課題であった部分の改善につながる。各委員から、ICT 教育の指導者育成について意見があったが、既に ICT 推進教員が各学校1名おり、今年に入って臨時会議も含めて9回行っている。学校の担当者には広がっているが、一人ひとりの教職員の ICT 活用はこれからとなる。 ICT 支援員については、今年度中に1名から3名となり、児童・生徒全員のメンテナンスの対応や、教職員への指導など、支援員なしには進まないと思うので、

	そうした方の力を借りてやっていきたい。 大切に使う心については具体的に指導を行っていくが、タブレットのケースも年度内に準備する予定。 家庭学習の充実については、タブレットの強みを活かし、授業と家庭学習をつなぎ習得率をあげ、反転授業として使用を進めていきたい。 学習の遅れがちな児童・生徒には、集中的に寄り添うことも可能となるので、そのような指導体制をとっていきたい。また、遠隔授業もできるようになることから、他の学校や地域、企業などと学びのつながりが生まれるような取り組みを行っていきたいと思う。
【議長】	みなさんの意見を一度整理すると、大きくは2つの論点になると思う。1つは、教える側の問題。これは、場合によってはバラツキがでかねないので、全体がレベルアップするようなノウハウの共有や先生を教えていく仕組みも必要ということ。また、効果を出していくために、家庭学習についても適切な指導が必要ということ。市長部局としても引き続き取り組んでいきたいと思うが、早く取り組んだ分の効果も検証していただきたい。 2つ目は、文明の利器を使えば使うほど、それを使いこなす思考判断力や人間性というか、これから先行きの見えない時代に、先端の道具を使い自力で生き抜く力が必要だと言われたと思う。これからの地方創生は容易な道ではないが、一番重要なのは人財であり、ICT化がきっかけとなってたくましい人財が輩出されるような文教のまちになれればと思う。
【委員】	この利点はあると思うので進めていっていただきたいが、弊害としては、人と人のつながりが減ってしまうこと、疎遠になってしまうことを懸念している。
【オブザーバー】	GIGAスクールについて、識者がどんな問題意識をもっているかを参考までにご紹介させていただきたい。広島県の教育長の平川さんだが、リクルート社を経て2018年から就任されている。彼女はGIGAスクールに関連して、PCを配ったが全く使われていないといった状況にならないために、漠然と安全性を疑問視してクラウド禁止にしないこと、それからPCの持ち帰りを認めることが大事と言っている。児童生徒一人がクラウドアカウントを持って、学校からも家からもアクセスできるようにならない限り格差は開いてしまうと言っている。また、活用のポイントとしては、ノートに書き込むことやドリルで終わらせることのないようにする必要があり、主体的・対話的で深い学びを作り出すような授業改善に結びつけていってほしいと言われている。 ICT支援員についても、専門家は現実として学校に来てくれないので、教職員でプロジェクトチームを立ち上げ、授業での活用法を丁寧にレクチャーするとともに、小中学生1人1台が実現する折には、オリエンテーションのカリキュラムを作り学校に提案したいと述べられている。 その他では、オンライン学習システム“スタディーサプリ”という中高生向けの動画配信があり、授業ごとに定着が確認できるテストもあって生徒の学習状況や理解度を把握することができるようになっている。また、自宅でできる学習や運動の動画などを簡単に載せることができる学校のホームページ作成システムで“エデュマップ”というものがあるが、無料で使うことができ、他のところとも連携することができるとのことで使われ始めてきているなど、ICT教育を意識した民間事業者も出てきているようである。
【委員】	学校教育課において情報を共有しながら現場での活用を検討しているが、持ち帰ることが前提で、家にWi-Fiが無ければ補助することとしており、注意点を確認しながら進めている。オンライン学習についてはzoomと同じ機能のものな

	ど、使い勝手のいいものになっていると思う。ホームページも学校閉鎖に伴い保護者へのお知らせに多く使われている。
【事務局】	本市の場合は、学習ドリルについても 5 年間で 7,800 万円程度予算措置をしており、自分でどんどん勉強していくシステムになっていく。
【議長】	学校の先生の知識装備は必要だと思うので、みなさんのご意見を伺いながら支援はしていきたいと思うが、操作に慣れることはスタートであり、どのように使いこなすかどいうことがポイントになる。支援員のあり方や人数も変わってくると思うので、その都度、話を聞きながら進めていきたいと思う。
	（2）学校運営協議会（コミュニティスクール）の現状と課題について
【議長】	地方創生・まちづくりは、これからますます重要になるが、市民の力を合わせての総力戦になる。そのためには、人財という地域資源が重要であり、人財を育てるには地域のかかわりが必須だと思う。
【委員】	各学校において、一部的では行事等で地域との関わりを持ってきたが、組織として明確になることは素晴らしいことだと思う。地域の方は、学校に行きたいと思っているが、なかなか行きにくいとのことである。しかし、実際に学校に来てもらうと積極的に子どもたちと関わっていただけるし、子どもたちも大変喜んでいる。ICT 教育も大事だが、人間として人との関りが重要であり、大人から教えてもらうことなど、地域と学校とで子どもたちを育てていくコミュニティスクールが今後重要になると思う。
【委員】	地域の方々は、おらがまちの学校ということで、学校を盛り上げることは意義のあることだと思っている。田植えや餅つき、草刈り、剪定など、地域の方が率先して行っており、コミュニティスクールの土台はできていると思う。いろいろなキャリア・技術・知識を持っている人を発掘し、学校に入って来てもらうようになればと思う。コミュニティスクールという言葉は分かりにくいと思うので、田植えや餅つきの延長線上のものと思ってもらえるように呼びかければ協力は得られると思う。一部の人に偏りがちなので、より多くの地域の人に来ていただけるような PR も必要だと思う。子どもたちも触れ合うことで、コミュニケーション力の向上にもつながると思うので、ICT 教育とコミュニティスクールが両輪となるように進めていく必要があると思う。
【委員】	本市の場合は、来年度から全校で実施されるということで先進地域だと思う。地域学校協働活動は、コロナ禍で足踏みをしている状況である。コミュニティスクールは学校単位だが、地域学校協働活動は統括指導員が公民館単位で配置されており、学校単位から地域単位でできることがポイントで、基盤はできていると思う。コミュニティスクールは、地域とのつながりはあまりできていないと思うので、学校から地域、地域から学校へ歩み寄る場に地域学校協働活動を通してできればと思う。先進地として積極的に進めるとともに、将来的には小中一貫にも関係してくると思うので、まちづくりとして支援していただきたい。
【委員】	コミュニティスクールは、子どもたちの人間力を高めるだけでなく、地域の人財を掘り起こすことにつながると思う。知り合いが子ども食堂をしているが、組織として進めていくことが課題だと聞いていたが、学校の調理室を使用し、料理をされる方、食材を提供される方、文化的なことを教授される方など様々な分野の方が関わってくれると思う。そのような中で、子どもたちの自立心や人間力が

	高まる活動が広がっていけばと思うし、中学校でベトナムの方との交流があり、非常によかったと聞いている。たくさんのニーズがあると思うので、コミュニティスクールとしての活動を広げていただければと思う。
【委員】	よりよい学校教育を通じて良い社会をつくるという考えが今回の学習指導要領の基本的な考え方で、学校と社会が連携協働しながら、新しい時代に必要な資質能力を子どもたちに育んでいくということが理念となっている。端的に言えば、学校にとっては、社会に開かれた教育課程をつくることで、学校だけでカリキュラムを作るのではなく、地域の人財を活用しながら作っていくということである。 そこで、開かれたコミュニティスクールにするために、今年度から社会教育指導員を兼ねて地域学校協働活動の統括推進員５人を配置するなど、形ができている。しかし、コミュニティスクールの校区、住民への広がり、普及啓発が課題であり、教育委員会、学校、市それぞれが、進化する必要がある。 今年度はコロナの影響で思うようにできなかったが、アフターコロナの観点も入れながら、進化させていていかなければならないと思う。
【オブザーバー】	私の地区では、毎年開催している祭りがあるが、プログラムを作る際に老人会・婦人会・子ども会も一緒に考えて、参加してもらうきっかけともなっている。小学校までは子ども会のような組織はあるが、中学校になるとなくなる。中学生にも参加してもらい、こういうふうな祭りにしたい、といった意見がプログラムに反映されるようになるといいと思っている。更に高校生になると、もっと地域と疎遠になる。 先日、中学校を訪問したときに、生徒会活動が地域とのかかわりの鍵となる話を聞いた。まさに、生徒会活動を通して、地域ごとに中学生の立志式ができれば参加のきっかけになると思った。コミュニティスクールや地域学校協働活動の中で、もっと議論を深めていただき、仕組みを考えていただければ、子どもたちが地域と疎遠になることを防ぐことにつながると思う。
【委員】	地域の横への広がりも重要であるが、子どもの成長過程に応じた児童会や生徒会の縦へのつながりなど、小学校と中学校が一体化することで、地域ともっと密着することができると思うので、新たな視点での取組みについても検討していきたい。
【委員】	保育園から小学生までは参加するものの、中学生になると親が行かなくていいとか、部活が忙しいとかでなかなか参加してくれない。成長過程なので、おじちゃんおばちゃんと話すことは恥ずかしいかもしれないが、地域一体となった行事などには参加していただきたいと感じたことがあった。
【議長】	最近起きた事例で感じたことが３つある。１つ目が“かけ算”、２つ目が“一緒”、３つ目が“地域課題”。 １つ目の“かけ算”は、教育と健康、健康と観光といった掛け合わせをすることで思わぬ相乗効果がでてくること。ICT とコミュニティスクールのかけ算は、子どもたちが高齢者にスマートフォンを教えるといったことが大きな交流につながること。 ２つ目の“一緒”には、子どもにとって大人が楽しむ風景は幸せな思い出であって、学ぶ・感動・発見を大人と一緒に感じることが心に残る。ホタルの飼育が全校一巡して、ごみを捨てない運動を大人と一緒にしてもらえば良かったと思った。一緒に学ぶことが楽しくもあり、大人への刺激にもなる。 ３つ目の“地域課題”の解決は、みなさんの考えどおりであるが、今回、誘致企

	業である育苗企業より花の苗 6,000 苗を無償提供していただき、全小中学校に配付することができた。次回は、子どもたちに種を渡して、それを育ててもらって花になったものを植えれば、自分たちの力で環境が変わっていくことを実感できることになる。その他にも、子どもたちが接ぎ木で苗が作られていることを研修することで、生命の教育となる。また、花を植えることは美的環境づくりにもつながり、大人も意識が変わる。 　いろいろな切り口がたくさんあり、コミュニティスクールに“かけ算”・“一緒”・“地域課題”をぶつけると面白い化学反応が起きると思っている。先ほどの生徒会活動の中に地域課題をぶつけると思わぬ発想につながると思う。
【委員】	いろいろな発想をいただいてありがたい。それぞれの学校で花を育てるなどは行っており、今回、育苗企業からの申し出によって、各学校における取組みとの結びつきが出てくると思う。まずは、情報共有が必要だと感じている。
【議長】	学校の協力者やスポンサーの募集といった掲示板があると、企業も分かりやすいと思うし、そのようなマッチングがあるといいと思う。
【委員】	市民劇にたくさんの方が出演してくれて、その後、七城小学校で「冨田甚平物語」を行うことになったので指導に行くことになった。そのような広がりが、コミュニティスクールにつながるのではないかと感じた。
【議長】	各委員より活発な意見をいただき、大変ありがたい。 　今日の意見を踏まえて、教育委員会や学校等でも、議論をいただきたいと思う。 　特に、ICT 教育とコミュニティスクールは、まちづくりと非常に密接である。市長部局としても、主体的になって一緒に考えていきたい。今後も、意見交換を密にして、新しい施策につなげられるようにしていきたい。また、何かあればご教示いただきたい。
	（3）その他
【議長】	委員のみなさまより、何かご質問等ございませんか。
【事務局】	・・・【質疑なし】・・・
【議長】	事務局よりありますか。 ありません。 それでは、本日予定しました議題については以上でございます。これで終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

菊池市総合教育会議運営要綱第 12 条によりここに署名する。

委員　生田尊隆　㊞